

2025年秋年末闘争・組織拡大

CTG 建交労道本部闘争速報

2025年11月17日／第11号

〒060-0909 札幌市東区北9条
東1丁目北海道労働センター2F
TEL011-711-7377
FAX011-711-7388
e-mail/ctg.hokkaido@gmail.com

北海道鉄道本部が第26回定期大会

北の鉄路守り、JR北海道で働く仲間の処遇改善を

北海道鉄道本部は11月8日に第26回定期大会を開き、各地域から18名の組合員が参加しました。全国鉄道本部からメッセージが届けられ、建交労北海道本部の森国委員長が来賓あいさつをしました。大会では2024年度の活動を振り返り、JR職場の仲間たちの声を要求にまとめて春闘や一時金闘争で物価高騰に耐えうる賃金や手当の支給を求めて会社との団体交渉を続けてきたことや、北の鉄路を守る取り組みで国土交通省・北海道・北海道運輸局との交渉や意見交換の場でJR北海道への支援強化を継続的に求めてきたことが報告されました。そして、新年度の活動においても、北の鉄路を守るためには国からの恒久的な支援が不可欠で、道民生活と鉄路の安全を守るために日夜奮闘するJR北海道で働く仲間たちの処遇改善が急務であることが強調されました。そのためには、国鉄分割民営化の生き証人として政府の責任を追及できる建交労鉄道本部の役割と活動を再確認しました。支部の取り組みでは、地域労連に結集する仲間たちとともに地域が抱える諸課題と国民諸要求の前進をめざすこともふくめ、竹田委員長と最上書記長の体制のもと、引き続く奮闘を確認し大会を終えました。このあと会場を移動しての懇親会で、交流を深めて明日からの活力を養いました。

函館運送支部が燃料手当妥結

函館運送支部は10月25日に燃料手当について妥結しました。妥結内容は、【函館】本採用・世帯主130,000円、同・準世帯主86,670円、同・独身43,340円、臨時従業員・世帯主65,000円、同・準世帯主43,340円、同・独身22,670円、60歳嘱託・世帯主68,340円、同・準世帯主53,900円（60歳嘱託は昨年から25,000円加算されました）、【東京】本採用・世帯主65,000円、同・準世帯主43,430円、同・独身21,670円、嘱託・世帯主52,000円、同・準世帯主34,670円、60歳嘱託・準世帯主14,460円で、いずれも前年と同額です。

11・6中央行動 国土交通省と交渉

道内の鉄道網の維持、総合交通体系の見直しなどで意見交換

11月6日におこなわれた中央行動で、午後からの全国鉄道本部の国土交通省に北海道鉄道本部から竹田委員長と最上書記長が参加しました。交渉では、北海道に対する建交労全国統一要求書で求めた「黄色線区をはじめ道内の鉄道網の維持」、物流では「貨物鉄道駅をハブ（中核）とした道内の総合交通体系の見直し」、観光客のニーズに合った自然を体感できる「ノロック列車を復活させて増収につながるディーゼル機関車が牽引する観光列車への支援」、北海道新幹線の開業が大幅に遅れることによって生じる損害について「自治体をはじめJRや各種業態に補償すること」を求めました。事前に要求書を提出して意見交換を積み重ねたことでこれらの要求の趣旨が国交省にも伝わっており、一致する視点もあって取り組み方法として学ぶこともありました。また、地震発生にともなう津波警報発令時に運行列車からの乗客の避難についての課題を共有して意見交換を終えました。